



平成 20 年 4 月 28 日

各 位

本店所在地 大阪市中央区道修町 3 丁目 6 番 1 号
会社名 株式会社 アクセス
代表者の
役職氏名 代表取締役 山田 欣吾
(JASDAQ コード番号: 4700)
問い合わせ先 管理本部 管理部
部長 仲橋 孝治
電話番号 (06) 6208 - 1600 (代表)

平成 20 年 3 月期通期 (連結・個別) 業績予想の修正 および特別損失の発生に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、平成 19 年 5 月 19 日付け当社「平成 19 年 3 月期 決算短信」にて公表いたしました平成 20 年 3 月期 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日) の業績予想 (連結・個別) を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失発生について

当社の連結子会社である日本保証システム株式会社の財政状態を踏まえ、当社といたしましては同社に対する貸付金約 2.1 億円に対して、貸倒引当金繰入額 1 億円を計上する見込みであります。また、同社の株式 1 億円についても、関連会社株式評価損として 1 億円を計上する見込みであります。

なお、連結子会社に対する特別損失につきましては、連結決算において消去されます。

2. 営業外収益について

当社は、前期に売却いたしました本社ビルの売却代金を戦略的な資本提携や研究開発投資等に活用するまでの間、流動性を確保し、安全性の高い商品で運用することとしておりました。当期におきましては、不動産担保貸付 80 億円における利息収入 166 百万円や保有する投資有価証券等の利息収入 45 百万円等により、当期の営業外収益は、230 百万円となる見込みです。

3. 平成 20 年 3 月期（連結・個別）業績予想の修正

(1) 通期業績予想（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

個 別

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	2,860	250	305	165
今回修正予想（B）	2,500	225	440	230
増減額（B-A）	360	25	135	65
増減率（％）	12.6	10.0	44.3	39.4
ご参考：前期(通期)実績	1,970	922	973	6,684

連 結

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	3,410	260	315	175
今回修正予想（B）	3,150	70	280	230
増減額（B-A）	260	190	35	55
増減率（％）	7.6	73.1	11.1	31.4
ご参考：前期(通期)実績	2,313	922	971	6,683

（注）なお、個別および連結の「ご参考：前期（通期）実績」については、平成 19 年 5 月 18 日付け当社「平成 19 年 3 月期 決算短信」にて公表いたしました数値を記載しております。

(2) 修正の理由

個 別

当期における当社の売上高といたしましては、まず、P L A N E T 関連売上は、積極的な営業展開が功を奏した結果、顧客数は着実に増加し、480 百万円（前年同期は、327 百万円）となり売上に貢献しました。SI サービス関連売上は、大型開発案件を受託したことにより売上高 2,020 百万円（前年同期は 1,553 百万円）となり当期の売上に貢献したものの、他方で、当初見込んでいた新規 SI 案件を失注したため、売上高については、期初の予想を下回る結果となり、2,500 百万円（前回予想比 360 百万円の減少）となる見込みです。

また、営業利益については、売上高の減少分をカバーするべく、当社子会社の阿克塞斯軟件(上海)有限公司を活用したオフショア開発など、海外の安価な労働力を活用し、開発案件における生産性の向上に取り組んだ結果、売上原価を圧縮することができました。加えて、一般管理費についても本社ビルの売却やソウル支店を閉鎖しコスト削減を図ったことにより、営業利益は 225 百万円（前回予想比 25 百万円の減少）となる見込みです。

次に、上述いたしましたとおり当社の保有する流動資産の運用収益により、営業外利益が増加し、経常利益は期初予想を上回り、440 百万円（前回予想比 135 百万円の増加）となる見込みです。

そして、当期純利益につきましては、上述いたしましたとおり、当社子会社の日本保証システム株式会社の株式についての評価損を計上する見込みであり、あわせて、同社への貸付金に対して貸倒引当金繰入額を特別損失として計上することとなりましたが、当期純利益は 230 百万円（前回予想比 65 百万円の増加）となる見込みです。

なお、連結子会社に係る特別損失については、連結決算上消去されます。

連 結

連結業績における売上高につきましては、上述しましたとおり、当社個別の売上高が期初予想を下回る結果となり、当期において、当社子会社である日本保証システム株式会社の顧客数増加に伴い同社の売上高が増加したものの、連結売上高としては、期初の予想を下回り売上高 3,150 百万円（前回予想比 260 百万円の減少）になる見込みです。

そして、日本保証システム株式会社においては、業容拡大による債権回収業務強化のための人員増強をはじめとした先行投資がなされたため売上原価が増大し、また、顧客数増加に伴い、偶発的債務の増加による貸倒引当金等の引当計上額が増加したため予想利益を確保できず、営業利益は、期初の予想を大きく下回り 70 百万円（前回予想比 190 百万円の減少）となる見込みであります。

しかしながら、個別の経常利益の増加により、連結の経常利益は 280 百万円（前回予想比 35 百万円の減少）、当期純利益は 230 百万円（前回予想比 55 百万円の増加）となる見込みです。

以 上

（注）上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり実際の業績は、今後の様々な要因により、上記予想数値とは異なる可能性があります。